

## 令和6年度 第3回 生物多様性市民懇談会 要点記録

日 時：令和7年2月18日（火） 14時30分～16時30分

場 所：リサイクルプラザ

出席者：堂本座長、朝霞環境市民会議 松永様/大木様、朝霞基地跡の自然を守る会 大野様、朝霞湿性植物保護の会 田ノ岡様、秋ヶ瀬野鳥クラブ 田中様、埼玉県生態系保護協会朝霞支部 富永様、わくわく新河岸川みどりの会 山本様、奥田課長

欠席者：黒目川に親しむ会 小林様

傍聴：黒目川に親しむ会 藤井様、野口様

### （1）議題1 地下水流動解析の報告

- ・水涵養や地下水の流れを解析するのは、涵養源を守るために行っているという考え方で良いか。他に目的はあるか。（委員）
 

→それだけでなく、水害抑制も合わせて解析している。地下水の保全と水害の抑制は表裏一体である。雨水浸透がすすめば、表面流出が少なくなり、水害は少なくなる。一方で、水害に強いまちづくりについての議論をしていきたい。（事務局）
- ・地下水の流れは、流域全部を考えて入れているのか、近隣だけか。（委員）
 

→流域は重要と考えている。朝霞市が中心であるが、上流も含め、範囲を広げて解析をしている。（事務局）
- ・検証に、小林さんの井戸の情報は活かされているか。
 

→小林様の情報は見つかっていない。しかし、過去の調査結果の記憶と、今回の解析結果は、朝霞駅から黒目川に向かって流れていくという同じような結果となったので、整合性が取れていると判断している。（事務局）
- ・新たな調査はしているか。この20～30年の変化を確認できるか。できれば、今後100年先を見据えた、物の見方ができないかと考えている。（委員）
- ・朝霞の市史という文献を見ると、越戸川流域は地下水位が浅く、黒目川は、武蔵野台地の上流部の深い水が流れてきているということが書かれている。今回の土壤の解析で、そのようなこともわかるのか。（委員）
 

→湧水起源を把握することは大事だと考えている。その水がどこから来ているのか、ということを知っていただき、施策について議論ができたらよいと思っている。（事務局）
- ・実際に今、広沢の池は湧水で賄われているのか、地下水なのか。
 

→広沢の池については、そこで湧いている湧水である。（事務局）
- ・小林さんの資料に目を通していただき、流域治水についても知っていただきたい。（委員）
- ・治水の話になったのは興味深い。具体的なパラメーターを知りたい。（委員）
 

→資料2の2ページ目に記載している。そのデータをもとにモデル化している。（事務局）
- ・コンクリートを全部取った時の影響が知りたい。内水氾濫を防げるのか。（委員）
 

→予測は、可能である。内水氾濫も大事であるが、今回は地下水がどれくらい地表に浸透していくのかに特化している。（事務局）
- ・幹線道路以外の全てコンクリートを剥がしたらどうか。解析結果は変わらぬくなるという結果がでれば、実施する意味があるということになる。（委員）
 

→内水氾濫は、下水道管渠網のシミュレーションになり、今回とは異なる。（事務局）

- それを組み合わせることはできないか。（委員）
- 今回のシミュレーションでは下水管渠網を含めることは難しい。（事務局）
- ・わくわく田島緑地の湧水は、年中枯れない場所である。黒目川は遠くの雨水が来ているとのことだが、新河岸川流域から流れてきているおのか。過去の水害の影響はあるか。（委員）
- おそらく近郊に降った雨が起因していると思われる。（事務局）
- ・このシミュレーションに緑や生き物をのせた時にどうなるのか。市民向けに解析結果を用いて説明してほしい。みどりの基本計画で、解析結果を活かしてほしい。（座長）
- みどりの基本計画では、湧水を守るだけでなく、湧水が涵養される経緯がわかるように解説して、子どもが読んだ時に気づきがあればよいと考えている。（事務局）
- 今の朝霞市の地下水の利用状況はどうなのか。個人や企業が使用しているか。（委員）
- 市では把握していない。（事務局）
- 地下水の利用は必要である。市として利用を推奨するのか、抑制するのか考えて欲しい。（委員）
- 環境安全課によると、市としては、基本的に飲み水として使っていない。農家は、保健所に確認するので、市は管理していない。工場用水は、規定量があるようである。朝霞の水は、地下水から3割、大久保浄水場から7割のことである。（委員）
- 今後市として、地下水が出る場所を把握しておくことが大切だと思う。（委員）
- 検証は、井戸の水位で実施している。湧水と地下水に行く量のバランスの検証が実施できていない。黒目川と越戸川の流量のデータをご存じであれば、教えていただきたい。3月までに入手できないと、今回は井戸水だけの検証となる。（事務局）
- 県土事務所で把握していないか。（委員）
- 確認する。（事務局）

## (2)議題2 グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価

- ・内間木、朝霞台、三原は、いろんな設備が少ないと感じた。にぎわいの創出という話があるが、あかりテラスもそのような場所で実施してほしい。炭素固定の視点では、斜面林を積極的に保全してほしい。また、積極的に公共施設でみどりを増やせたら良い。環境森林税など活用できないか。雨庭という言葉も、森林ダムのよう強い言葉を使ってほしい。（委員）
- あかりテラスは、官民連携で実施している。今後もそうあるべきと考えている。（事務局）
- ・土地利用から、農業空間、健康やにぎわい等が見えてくるのは、面白い。解析結果から地域格差を是正していけたらよい。（委員）
- にぎわい創出の評価は、空間の選び方により、評価が変わる。イベントの場所は、今後の可能性もある。にぎわいの創出については、アイデアがあればご意見いただきたい。（事務局）
- ・P14(3)、(4)内間木の部分は緑が豊かで、身近な遊び場、緑が多いというところだが、実際、北側は、水害ハザード区域になっている。実は避難にそぐわない区域である。誤解を生まないような表現に修正させていただきたい。（事務局）
- ・にぎわいという言葉は魅力的であるが、経済のためににぎわいではなく、心が豊かになるものを賑わいとしてほしい。「にぎわい」という言葉をうまく表現していただきたい。「心の賑わい」と置き換えると色んな意味が出てくる。（委員）
- 「にぎわい」は、本来の豊かさをなくす可能性もある。（座長）
- 国（国交省）がグリーンインフラの機能を発表していて、経済的な側面も含んでいる。さらに市の総合計画やマスタートップランに必ず出てくるので、整合性は必要である。「にぎわい」という言葉は使わざるを得ないが、「日常的な交流」、「憩い」などお金の色が薄まるような言葉や解釈を検討したい。議論を進めていきたい。（事務局）

- ・グリーンインフラという言葉は、ぼやけてしまう。何のために行うのか、最初にしっかりと目的を出した方がよい。公園の役目について話し合いが必要である。（委員）
- ・P11 遊び場のパフォーマンスのところで、遊具の分布ではなく、バッタもいる公園の分布図を作った方が、意味があるのではないか。遊具という視点ではなく、幼児がバッタを追いかけることができるような場所の情報発信が大事かと思う。（委員）
  - 草原という切り口での抽出し、バッタがいる公園の分布図を作成することは可能である。自然で冒険遊びができるという視点は大事だと思うので、検討させていただく。（事務局）
  - 黒目川の評価が高いが、近くに評価の低い公園もある。黒目川と公園を繋げると相乗効果があるのではないか。そういう分析の仕方は可能か。（委員）
  - 市民アンケートで出てきているので、課題にも位置づけ、施策に入れる。歩道についての意見もたくさんあるので、2/22 のワークショップで市民から意見を聞く予定である。（事務局）
  - 朝霞の森のススキで、子ども達が迷路を作ったり、親子でススキや葛のつるで秘密基地を作ったりしている。親子の共同作業の機会や教育効果もあるのが自然であると思う。（委員）
  - 草刈りを管理し、遊べる場所を作るという視点は大事だと考えている。しかし、解析の評価に組み込むことは難しい。（事務局）
  - ススキは、子どもだけでなく、大人のためでもある。大人が遊べる場所で、子どもも安心して遊べる。朝霞の森のように遊具がないことが良いという評価も必要である。河川敷では子ども達は色々なことをみつけ、斜面を滑るなどして、自然の中で遊ぶ。遊びは子ども達自身が考える。お金をかけないで遊べる環境が大事である。（委員）
  - 環境のアンケートでは、河川敷など人が入れない場所は評価が低い。しかし、そのような場所こそ自然が残り、大事にしたい場所である。朝霞市の河川は宝物である。朝霞調整池、荒川、彩湖というように、広い範囲の景観を一体で考える。さいたま市、和光市を含めた景観づくり、グリーンネットワークを考えてほしい。（委員）
- ・公園の維持は今大変である。新しいみどりの基本計画では、公園の樹木の樹齢も考え、20～30 年後までの維持管理の方法を提示しておく必要がある。（座長）
  - 道路に対して樹種があつてないので、更新が必要と考えている。（事務局）
- ・自転車道路の整備について、基本計画に記載しておいてほしい。（委員）
  - 道路計画に記載されている。幅員が広い道路しか作れないが、計画に記載する。（事務局）
  - 車道を 1 本にし、片側を緑道にするなどの長期計画があつてもよい。（委員）
- ・第八小学校の脇の歩道の大きな桜の木が伐採された理由を知りたい。（委員）
  - 近隣住民からの要望である。通行の妨げや落ち葉など日常生活の妨げが原因である。（事務局）
  - 市として民地のみどりを守る仕組みが必要である。（座長）
- ・根岸台の斜面林の公園は、遊具はあるが子どもがいない。自由に遊べるような公園が、魅力ではないか。朝霞の森の子どもイベントで配布しているような、市全域の子ども達向けに、生物多様性を学べるようなパンフレットがほしい。市全域の 4 年生に配るなどしてもよい。子ども達をどう育てるかという視点と組み込んで欲しい。市と市民が協働で取り組むことで、市民のやる気に繋がると思う。（委員）
- ・遊具がなくても子どもの遊び場となる。田島緑地も子どもに魅力的な場所である。施設を作るのではなく、子どもが楽しめる場所を作ってもらいたい。にぎやかということについては、自然と一緒にとなった場所で、人々が集まれる場所があると良い。そこに住んでいる人が育っていく場所という視点がほしい。自然の循環を考え、100 年後まで残されるような空間が守られるといい。（委員）
- ・100 年という先まで考えると子どもの視点が大事である。親子や世代を超えて楽しめる場所があればいいなと思う。（委員）
- ・子どもの学校の行き帰り、近所に楽しめる空間があるかどうか、という視点があると良い。小さい子や親子も朝霞のみどりを楽しめるように、みどりの配置を考えてほしい。（座長）

### (3)「生物種が生息すると思われる GI タイプ」及び「生物種と指標の対応表」に係る修正等の意見提供について

- ・前回資料で、生物種が生息すると思われる GI タイプの確認をしていただきたい。この GI タイプで意見があれば今日までにご意見をいただきたい。この生物多様性市民懇談会で確認させていただき、本業務における評価システムとして決定させていただきたい。（事務局）  
→そんなに違和感はない。今後出てくるかもしれないが、方向としては間違ってはいない。（委員）  
→これを基につくっていくということだと思うが、これでよいか。今後何かあれば、事務局に連絡をお願いする。（座長）  
→良い。（委員一同）

# 基地跡地見学会（令和7年7月11日）見学後アンケートの意見要点

## 1) 緑地の価値の再認識

参加者の多くが、朝霞市を中心部に残された広大な緑地を、市や国にとっても貴重な「宝」「財産」と認識している。

- 武蔵野の面影を残す貴重な自然資源として、その価値を高く評価。
- 市街地におけるグリーンインフラとしての機能や、心地よい「みどりの風」を感じられる場所としての魅力を挙げている。
- 手を加えすぎず、ありのままの形で後世に残すべきだという意見が複数あり。

## 2) 活用と開放に関する要望

現状ではほとんど活用されていない状況を「もったいない」と感じ、市民が利用できる形での活用を望む声が多数あり。

- 遊歩道や散歩道として開放し、市民が自然に触れる機会を増やすことを提案。
- 環境学習の場として、小中学生など若い世代が利用できるようにすることや、季節ごとの見学会・生物観察会の定期開催を希望。
- 国有地全体を「朝霞の森」として市民に認知させ、親しんでもらうことを期待する意見。

## 3) 緑地の現状と課題

緑地の保全・管理の現状については、いくつかの懸念点や具体的な課題が指摘された。

- 整備がなされておらず、森が荒れているという印象を受けたという意見。
- 立ち枯れした木や、シラカバ、ツタ類などの植物が繁茂している状況が報告された。
- 竹の伐採など、適切な管理の必要性を訴える声や、早期の植生調査の実施を求める意見。
- 米軍基地時代の建物が老朽化していることや、遺構が朽ちていく前に記録として残してほしいという要望。

このほか、見学会の定期開催や、市民への情報提供を増やすこと、適正な維持管理を国に働きかけることの重要性も指摘された。